

この後も調査審議は続き、平成19年11月には、全国計画に位置付けるべき内容に関する計画部会における検討の最終報告（国土形成計画（全国計画）に関する報告）がとりまとめられ、12月の国土審議会に報告された。これを受けて国において全国計画の案が作成され、パブリックコメントおよび都道府県からの意見聴取を経た後、本年2月に、この計画案について国土審議会に対し調査審議が求められ、当審議会として概ね妥当である旨の答申を行うに至った。

この答申に至るまで、国土審議会本審議会（委員30名）の開催に加えて、計画部会および専門委員会において、実に80回に及び会議が開催され、延べ92人の委員の方々に議論に参加いただいた。このような数多くの方々の議論の積み重ねを通じて、国土形成計画は練り上げられてきたのである。

新たな国土像

今回の全国計画では、将来の国土のあるべき姿として、「多様な広域ブロックが自立的に発展する国土を構築するとともに、美しく暮らしやすい国土の形成を図ること」を掲げている。「この具体的な考え方は次のようなものである。

まず、広域地方計画区域などを一つの単位とする広域ブロックが、それぞれの創

意工夫のもと独自の地域戦略を描くことにより地域全体の成長力を高めていく。その際、各地域が成長著しいアジア諸国と直接交流・連携し、その活力を積極的に各地域に取り込んでいくことが期待される。さらに、各ブロックが相互に交流・連携し、その相乗効果により活力ある国土を形成していくのである。

次に、各地域に存在する伝統あるまちなみや山紫水明の景色などをはじめとする自然環境や生活空間に目を向け、美しく暮らしやすいさの面であり一層質の高い国土へと再構築していくのである。

こうして地域がそれぞれの魅力を発揮しながら成長し、これらが相互に補い合って共生することにより、重層的で厚みのある国土づくりが行われるのである。全国計画に描かれている将来の国土のあるべき姿には、「このような思いが込められているのである。

全国計画では、この新しい国土像を実現していくために、5つの戦略的目標を掲げている。すなわち「東アジアとの円滑な交流・連携」「持続可能な地域の形成」「災害に強いしなやかな国土の形成」「美しい国土の管理と継承」「新たな公」を基軸とする地域づくり」である。

「このうち『新たな公』を基軸とする地域づくり」については、他の4つの目標を推進する横断的な視点として位置付けられ

ている。近年NPO法人数の急増やボランティア活動の広がりなど、国民の社会貢献意識の高まりが見られ、地域づくりを担う主体は、行政に限らず多様な主体に広がっている。成熟社会において、我が国の活力を維持していくためには、各地域が知恵を絞り出していく必要があることは前述のとおりであるが、これにあたっては、行政にとどまらずさまざまな主体が連携し、国民参画による国土づくりを展開していくことが効果的である。

全国計画の推進と 広域地方計画の策定に向けて

全国計画の推進にあたっては、刻々と変化する社会経済情勢に応じて適時適切な施策展開を図るとともに、広く国民の参画を促していくことにより、効果的に実施していくことが必要である。また、広域地方計画の策定に際しては、各広域ブロックの持つポテンシャルが十分に発揮されるものとなるよう取り組まなければならない。

国土審議会では、こうした点を踏まえ、国土形成計画の全国計画案に係る答申に際して、全国計画の実施にあたっての留意事項として次の意見を提出している。

第1に、計画の推進にあたって、効果的な進行管理を行うこと、特に人口減少、高齢化その他の条件の厳しい地

域における施策展開について十分に留意すること、である。また、国土審議会としても、計画の進行状況について点検し、必要に応じて提言をしていくこととしている。

第2に、広域地方計画の策定に関してである。都道府県を超えた協力体制の確立や空間に即した具体的な検討の必要性について指摘することにより、広域地方計画に基づく地域戦略の推進にあたっては、関係機関の緊密な連携に努めることを求めている。

第3に、本計画の趣旨および内容を、わかりやすく周知するとともに、実施にあたって広く国民の参画を得られるように努めることを求めている。

第4に、長期計画である国土形成計画については、計画の内容を硬直的に考えることなく、時代の変化に対応し適時見直しを行うことを求めている。

以上の点に留意して国土計画の推進が図られることにより、計画に描かれた将来のビジョンへ向けて、着実に我が国の国土づくりが進められることを切に願うものである。

プロフィール

東京大学法学部卒業。(株)東芝取締役社長、(社)日本経済団体連合会副会長を経て、2005年6月より(株)東芝取締役会長。2007年11月より日本商工会議所会頭。